

あがたい 縣居翁・賀茂真淵は郷土の誇り、日本の宝

歌人としての真淵翁

会長 山下智之

真淵翁の歌文的思考は、遠江の文化環境と父親や母親の影響が育てたものと思います。その下地から、やがて杉浦家の月次和歌会に出席するようになり、享保七年（一七二二）の月次和歌会では

長閑しな けさは霞も 空にみつ
やまと鳴根の 春も知られて

と、詠っています。

歌会での役柄は、講師四回、読師二回、雑掌一回、雑餉二回と勤め歌会の発展に尽力しました。

真淵翁は、家業や身の勤めも忘れず、歌会にも欠席しないという前向きで誠実な人でした。



賀茂真淵は明和6年(1769)10月30日
73歳で亡くなりました

◎当日、縣居神社では、関係者列席例大祭が斎行されました。

◎地元の伊場文化財愛護の会は、賀茂真淵生誕地で第35回真淵祭を行ないました。祭式後、県居小学校5年生の真淵の歌「あがたみの茅生の露原かきわけて…」等の朗誦、器楽演奏で真淵翁を偲びました。

縣居神社



縁起ものセンリョウ

神社社務所前にてお頒けします。

22日(木)～26日(月)
10時～(1時間程度)

養生費として2～3本包み200円をお願いします。
腐葉土もあります。ご利用下さい。

賀茂真淵記念館



紙芝居「賀茂真淵物語」
二紀会静岡県支部長 池谷雅之作

賀茂真淵記念館に寄託しております。

Tel.053-456-8050

上演時間 15分～20分

- ①紙芝居をお貸しします。
- ②記念館学芸職員の出前講座します(1時間程度)。ご相談下さい。



美飲喫茶哉也一杯二杯咲々樂々掌拍
上哉也三都幾四つ岐巖直心直之毛与
五杯六杯天足国足須母与七杯八杯

右美酒歌 真淵醉書

うま酒の歌 宝暦五年(一七五五)

真淵59歳拓本

浜松市中央図書館

賀茂真淵翁の遺徳顕彰について

真淵翁は、学問に対する思いが深く、若くから上京し荷田春満に入門し、四十一歳で江戸に出、学業一筋に研鑽し七十三歳で亡くなりました。その間、ふるさと浜松に対する思いは強かったようです。真淵の淵は、当時この地遠江国敷智(ふち)郡に因んだものであり(真は美称)、晩年は祖先の『縣主』から『縣居』を号しました。

真淵翁の卓越した学績は、三四〇名余の弟子さんにより更に深まり、現在にも通用しております。「日本の宝」といえましよう。最近、賀茂真淵研究が進んでおりますが、残念なことに、育った浜松も活躍した江戸も戦災により貴重な資料が消失してしま、その知名度も学績も乏しくなっております。

当会では、会の目的を達成するために賀茂真淵翁・縣居神社に係わる資料を収集しております。皆さまの情報提供をお願い申し上げます。

浜松市中区東伊場一・二二・一

縣居神社社務所内

賀茂真淵翁遺徳顕彰会

遺徳顕彰会会員を募集しております

年会費 個人：一口2千円、法人：一口1万円

振込先 賀茂真淵翁遺徳顕彰会 浜松信用金庫 東伊場支店(普通) 口座番号2081066

※詳しくはホームページをご覧ください。

全体の意は『オイシク飲ムコトヨ、一杯二杯ハ。ニコニコト樂シクナリ手ヲ打ツコトダヨ三杯四杯ハ。(ウカレテ)コトバモ心モ純粹にナッタヨ五杯六杯ハ。天モ国モスベテ満足ダヨ七杯八杯ハ。』

『記紀』歌謡に近い形で、古代語を巧みに使、謡いものとして酒興の過程が巧みに詠みこまれるとともに、真淵の古道思想がよく表れている。真淵の醉眼に古代の理想社会が浮かんだことだろうと評される。真淵の孫弟子高林方朗(みちあきら)が拓本にして分け真淵を顕彰した。